

5月28日に令和3年第2回富里市議会定例会が開会いたしました。

さて、新型コロナウイルスの感染拡大により、国は全国各地に発令している緊急事態宣言の地域と、千葉県の一部の地域に適用されているまん延防止等重点措置の対象地域を含め、現在、期間の再延長を念頭に検討が進められており、本市としましても、依然として予断を許さない状況が続いています。

一方で、新型コロナウイルス感染症の収束に向け、「切り札」として期待されるワクチンは、本市では、5月17日から、65歳以上の方を対象に、ワクチンの個別接種が始まり、5月23日からは、本市の保健センターにおいて、集団接種を開始しました。

対象者である1万4千788人のワクチンを確保させていただき、5月27日現在で、1万1千241の方が予約し、同日現在で、そのうち2千373の方が、ワクチン接種記録システムにより接種したことを確認しております。

また、余剰ワクチンの取り扱いについては、集団接種は高齢者施設の従事者へ、個別接種については、市内の各医療機関でキャンセル待ちの対応などにより、余剰のないよう、努めてまいります。

今後は、国が示す7月までの接種完了に向け、速やかに実施するとともに、65歳未満については、国や医療機関等の関係機関と現在、調整しており、段階的な優先接種対象者を含め、円滑に移行するとともに、国が示す令和4年2月を目途に、早期の接種完了を目指し準備を進めております。

その一方で、コロナ禍によって時代は大きく変化し、収束を迎えた時には富里市を前へと進めるため、令和2年度にまいた政策の種を、令和3年度は、一つ一つ形にしていく年であると考えています。

#### (1) 市の「観光・交流の拠点」の形成を目指す、(仮称)末廣農場整備事業について

本市の貴重な資産である、旧岩崎久弥末廣農場別邸公園と末廣農場の歴史的価値を活かし、別邸と一体的な整備と活用に加え、富里の「農・自然・歴史・文化」の魅力を発信し、観光・交流拠点として、地域一体で来訪者をもてなす、「地域による地域のための拠点」を令和4年度のオープンを目指し、進めております。

「公設民営」からも、特に、施設の管理運営については、民間のノウハウを最大限に活用し、「おもてなし」や「ふれあい」など、質の高いサービスを提供できるよう、6月から指定管理者候補者の公募

を予定しており、候補者の選定に向け、慎重に準備を進めてまいります。

また、旧岩崎久弥末廣農場別邸公園の整備においては、今年度外構工事を主に実施する一方で、隣接する私有地の谷津について、良好な景観形成の確保をはじめ、水質の浄化、調整池的機能の確保から、市民団体が主体となり、谷津の再生に向けた調整を図っております。

## (2) 森林の適正管理と保全を目指し進めています、富里市森林再生プランに基づくモデル事業について

現在、2か所の私有林で作業を実施しています。

一昨年の台風被害で影響を受けた倒木など、市内においては荒廃森林が増加しております。

また、緑豊かな、そして整然とした自然を後世につないでいくためにも、森林所有者の再生への負担額を軽減することが実現への一歩として、森林再生プランを検討してまいりました。

本プランでは、伐採した木材を木質バイオマスエネルギーに利用することで、固定価格買取制度を活用した伐採費用への充当が、森林再生に向けた所有者の大幅な伐採経費の削減につながることで、あらためてモデル事業によりあきらかになってきております。

今後は、本モデル事業の成果をまとめ、市内森林所有者への意向調査の結果を基に、森林所有者と森林組合のコーディネーターとして、計画的

に森林整備が実施できるよう、作業を進めてまいります。

### (3) 「市街化区域の用途地域の見直し」について

都市計画（案）の概要縦覧をこの4月に終了しており、いよいよ見直し作業の最終段階に入っております。

用途地域の見直しにおいては、市街化区域を、6つのゾーニング地域にわけて、全体で、市街化区域の約13パーセントに当たる約62ヘクタールを、主に低層住宅の建築を目的とした地域から、店舗や事務所などが建築可能な地域へと変更いたします

このことにより、一昨年の度重なる災害、また、現在のコロナ禍における経験を踏まえ、徒歩圏内での生活利便の確保が図られ、高齢化社会を見据えたコンパクトシティを実現することとしています。

### (4) 市街化調整区域における、都市計画提案制度を活用した地区計画について

市内において複数の企業が進出の具体化を検討する中で、「七栄北大溜袋流通業務地区」の約5.2ヘクタール及び「酒々井インターチェンジ周辺地区」の約2.8ヘクタールの2つの地区について、この5月に開催された富里市都市計画審議会にて、地区計画案が可決されました。

今後は、令和3年6月中の都市計画決定に向けて、準備を進め、決

定次第、開発手続きに移行してまいります。

このことにより、有効的な土地活用はもとより、雇用の促進や地域経済の活性化が図られます。

(5) 本市の賑わい拠点として、一角を担う、新木戸大銀杏公園  
について

新たな事業として、恵まれた立地環境とそのポテンシャルを活かした官民連携事業に着手いたします。

具体的には、「公募設置管理制度、いわゆる Park-PFI」を導入することで、公園の本来の機能を維持する一方で、民間事業者のアイデアや技術力を活用することで、利用者へのサービスの向上が期待されることから、本年4月に、サウンディング型市場調査を実施し1事業者より提案がありました。

今後は、市場調査をもとに、事業者の公募に向け準備を進めてまいります。

(6) 成田空港の機能強化に伴い、発着回数50万回を前提に算定方法を変更し交付される、成田空港の周辺対策交付金について

令和2年度はおよそ5千万円増額の、1億7,140万5千円が交付されました。

本交付金は、空港周辺対策として、道路整備などの費用に充てていますが、成田空港と酒々井インターチェンジを結ぶ、産業道路の役割

も担っている市道01-008号線においては、想定を超える、ゲリラ豪雨等により、度重なる法面崩壊が発生しております。そこで、安全性を最優先に考え、成田空港を結ぶ主要な路線であることから、交付金増額分を、当該市道の法面整備工事に活用してまいります。

#### (7) 国が推し進める、行政のデジタル化について

情報化社会が急速に発展し、今後は、ICTの浸透が市民の生活を、さまざまな場面で、より住みやすい暮らしへと進化させていくものと考えています。

本市としましても、デジタル化の効果をしっかりと行政サービスへ反映させるためにも、新たに設置した広報情報課を中心に、庁内連携を図り、住民基本台帳や税情報などの基幹系情報システムの標準化や行政手続のオンライン化など、本市の実情に合わせた「富里市DX推進計画」の策定に着手いたします。

今後は、令和3年の夏頃を目途に示される、国の手順書に基づき、推進計画の策定に取り組むとともに、合わせて、ICT機器等の活用についても計画的な導入と効率的な行政経営を進めてまいります。

#### (8) 富里市の新たな羅針盤となる「次期総合計画」について

これまでの災害やコロナ禍の経験は、今後の時代の変化を、大きく左右していくものと捉えております。いかに、変化する社会構造を見極め、市民をはじめ企業、大学とのつながり、人やモノが生き生き元

気に動き、富里の人材や資源等を未来へとつなげるための、中長期的なビジョンを示す次期総合計画は、ますます重要となってまいります。

策定にあたっては、まちづくりを推し進めるうえで、基本でもある市民起点を柱に、また、経済成長や気候変動対策といったSDGsへの取り組みを加えるなど、多角的な視点により、計画の策定に取り組んでまいります。

(9) 本市のブランドである、富里のすいかに関連した取り組みについて

コロナ禍における生産者の応援プロジェクトとして、官民連携による、「富里応援」を展開します。

具体的には、株式会社イトーヨーカ堂により、すいかを販売し、また、富里市農業協同組合では、イトーヨーカ堂にすいかを提供を行うとともに、市ではすいかを購入いただいた方に対し、抽選により、スイカロードレース大会の出走権を特典といたします。また、イオンモール株式会社、成田店内の大型ビジョンでは、6月より、富里スイカロードレース大会のPR動画を放映いたします。

さらに、包括連携を図る日本大学芸術学部では、市の公式マスコットキャラクター「とみちゃん」の着せ替えを93種類デザインしていただき、今後は、さまざまな場面の活用を

図ってまいります。

また、富里のすいかのPRとして作成したポスターは、出荷の最盛期に合わせ、成長過程をたどったポスター3種類が出揃っております。

今後は、首都圏の大型商業施設などに掲出し「富里のすいか」と「富里の魅力」をPRしてまいります。

また、同じく日本大学工学部では、作付けの中で最も労働力が必要となる、スイカの生産において、省力化を図るため、ロボット技術等の研究に入っております。

なお、市内小中学校10校では、すいか農家への聞き取りやすいか作り、食育についての動画を視聴し、学校給食ですいかを食べ親しむことで、富里のすいかに関する知識の共有と郷土愛の醸成に取り組んでまいります。